

交付運用報告書

第51期(決算日2015年3月20日)

第52期(決算日2015年4月20日)

第53期(決算日2015年5月20日)

第54期(決算日2015年6月22日)

第55期(決算日2015年7月21日)

第56期(決算日2015年8月20日)

作成対象期間(2015年2月21日～2015年8月20日)

第56期末(2015年8月20日)

基準価額	3,376円
純資産総額	49,557百万円

第51期～第56期

騰落率	△ 9.8%
分配金(税込み)合計	540円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース」は、2015年8月20日に第56期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、エマージング諸国(新興国)の高利回り社債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

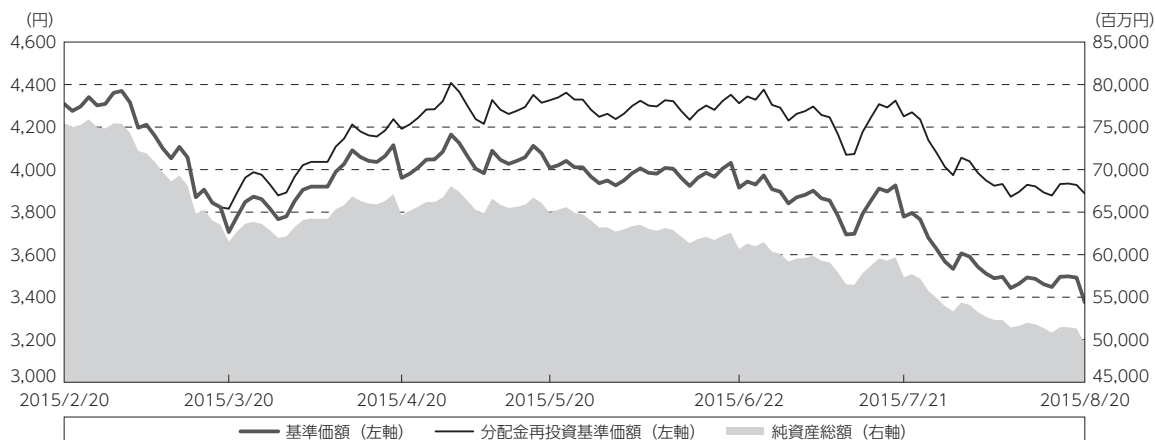
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2015年2月21日～2015年8月20日)



第51期首：4,309円

第56期末：3,376円 (既払分配金(税込み):540円)

騰落率：△9.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2015年2月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の推移

第51期首4,309円の基準価額は、第56期末に3,376円(分配後)となり、分配金を加味した騰落率は△9.8%となりました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、エマージング諸国(新興国)の高利回り社債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。また、原則として、米ドル売り、ブラジルリアル買いの為替取引を行なっています。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・保有債券の利息収入を得たこと。
- ・新興国ハイ・イールド社債を中心として米国国債とのスプレッド(利回り格差)が縮小したこと。

<値下がり要因>

- ・米国国債の長期金利が上昇(債券価格は下落)したこと。
- ・ブラジルリアルが対円で下落したこと。

1万口当たりの費用明細

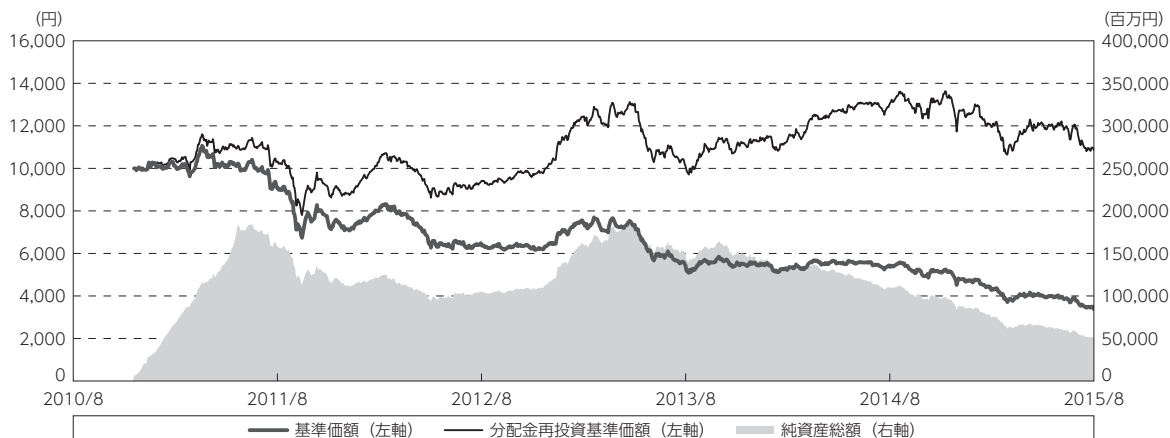
(2015年2月21日～2015年8月20日)

項 目	第51期～第56期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	22	0.552	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(6)	(0.161)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(15)	(0.374)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.005	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用)	(0)	(0.002)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	22	0.557	
作成期間の平均基準価額は、3,932円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
 (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。
 (注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2010年8月20日～2015年8月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2010年12月9日です。

	2010年12月9日 設定日	2011年8月22日 決算日	2012年8月20日 決算日	2013年8月20日 決算日	2014年8月20日 決算日	2015年8月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,077	6,370	5,208	5,361	3,376
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,280	1,900	1,680	1,350	1,200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.2	△ 8.8	5.7	31.4	△ 17.0
純資産総額 (百万円)	6,568	158,367	104,052	142,733	109,026	49,557

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2011年8月22日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2015年2月21日～2015年8月20日)

(債券市況)

期間中、新興国のハイ・イールド社債価格は上昇しました。マクロ経済要因では主要先進国中央銀行の政策の差に注目が集まりました。米国では堅調な経済成長を背景に利上げに向かうとの観測が高まる一方、欧州では欧州中央銀行（ECB）が量的金融緩和に乗り出しました。当初、ECBの緩和策の影響で米国国債金利も低下（債券価格は上昇）基調が続きましたが、ドイツ国債金利が2015年4月下旬から上昇に転じ、米国国債金利も再度この動きに影響されて、長期金利が上昇しました。米国は早ければ9月にも利上げが行なわれるとの見方がある一方で、足元の経済指標は弱含み、米国連邦準備制度理事会（FRB）がハト派な姿勢を示したことなどから、短・中期金利の上昇圧力は限定的で、長期金利の動きに比べて落ち着いた状況でした。

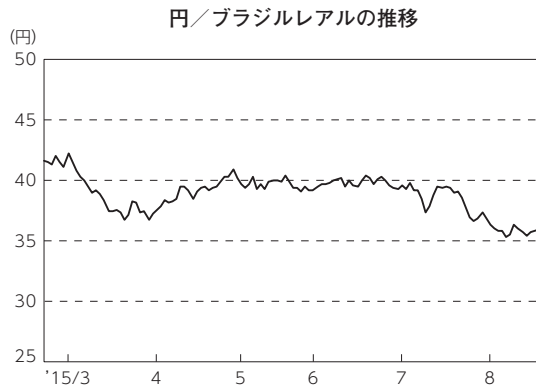
新興国社債市場は、ロシアとウクライナ情勢に悪化が見られなかったことや、原油価格の動きが落ち着いていたこと、中国の緩和策に対する期待、魅力的な利回り水準などが下支え材料となり、債券市場の中では比較的堅調に推移しました。特に2014年末から2015年初めに不振であった新興国ハイ・イールド社債は米国国債とのスプレッドが縮小しましたが、7月以降の資源価格下落で縮小幅がやや小さくなっています。国別では、ロシアやカザフスタン、ナイジェリアなどの資源関連銘柄の多い国の価格上昇が目立ちました。また、汚職事件に関する捜査後、ブラジルのブラジル石油公社（ペトロbras）が期限までに監査済み決算報告書を提出できるかに注目が集まっていた。結果的にこれが実施されたことで、ブラジル資産に対する投資家心理が改善しました。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間中、概ね0.05～0.09%の範囲で安定的に推移しました。国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めから2015年6月にかけては、日銀がTBの買入れ額を減額したことなどを背景にプラスの利回りとなる局面もありましたが、概ね0.00%近辺でもみ合いの推移となりました。7月に入ると、ギリシャの債務問題を背景としたユーロ圏からの資金流入などもあり一時的に-0.07%台まで低下する局面があったものの、0.00%近辺で期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中におけるブラジルリアル（対円）は、右記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

(2015年2月21日～2015年8月20日)

(当ファンド)

当ファンドでは、収益性を追求するため、「EMサブI Gハイインカム・コーポボンド・サブトラスト JPY・BRLクラス」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(EMサブI Gハイインカム・コーポボンド・サブトラスト JPY・BRLクラス)

当ファンドは、国別ではインドネシアの投資比率を大きく減らす一方で、ロシアの投資比率を高めました。セクター別では、原油価格の動きが落ち着いていたことからエネルギーセクターへの投資比率を増やし、消費財セクターの投資比率を低めにしました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

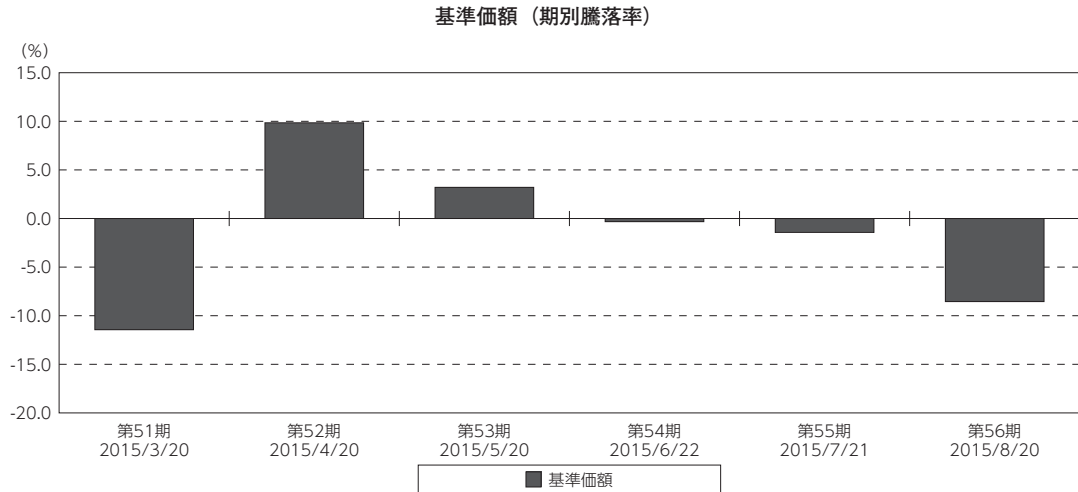
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年2月21日～2015年8月20日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

以下のグラフは、作成期間中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

(2015年2月21日～2015年8月20日)

第51期～第56期における分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下の通りといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
	2015年2月21日～ 2015年3月20日	2015年3月21日～ 2015年4月20日	2015年4月21日～ 2015年5月20日	2015年5月21日～ 2015年6月22日	2015年6月23日～ 2015年7月21日	2015年7月22日～ 2015年8月20日
当期分配金	110	110	80	80	80	80
(対基準価額比率)	2.883%	2.702%	1.957%	2.003%	2.073%	2.315%
当期の収益	110	110	80	80	80	80
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	2,050	2,096	2,172	2,251	2,334	2,421

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、原則として「EMサブI Gハイインカム・コープボンド・サブトラスト JPY・BRLクラス」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(EMサブI Gハイインカム・コープボンド・サブトラスト JPY・BRLクラス)

米国で利上げが近づいていると考えられることから、アメリカドル高および資源価格安といった投資テーマがしばらく継続するとみています。しかし、米国の成長見通しを考慮すると、利上げのペースは急激なものとはならず、緩やかで段階的なものになると考えています。新興国社債市場には、ブラジルの汚職スキャンダルやトルコの再選挙、中国の経済成長の鈍化など引き続きマイナス要因も見られることから、保守的なポートフォリオを維持することが賢明であると考えています。この結果、今後米国の利上げの動向や新興国市場のイベントなどで価格変動が高まり、魅力的な投資機会が訪れた場合に行動を起こしやすくなると考えています。

しかしながら、慎重なポジションを維持しながらも、新興国社債市場に対して極度に悲観的になる必要はないと考えています。その理由として、まず利回りが魅力的であることが挙げられます。またブラジルやロシアなどの主要な市場で新規発行が少ないことから、市場全体で見ても新規発行は過去数年間と比較して少なくなっており、需給面も良好とみています。また新興国社債への新たな投資家が需給面で市場の支えになっていると思われます。投資家は中長期的な目線で投資を行なう機関投資家の比率が高まっているため、資金流出のリスクは抑制されていると考えています。また価格変動が高まる局面は、逆に良好な投資機会につながるとみており、2015年末にかけて元本の保全に努めながら柔軟な運用を心掛けたいと考えています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

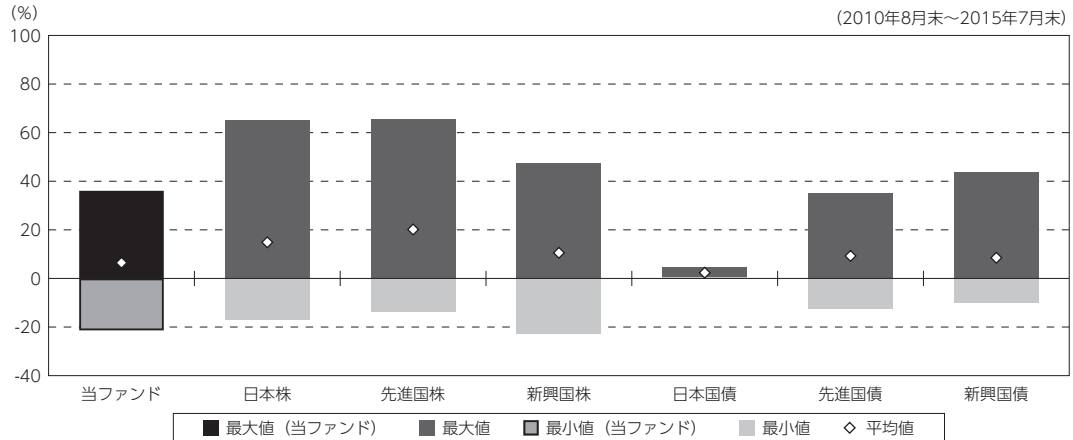
2015年2月21日から2015年8月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2010年12月9日から2020年8月20日までです。
運用方針	主として、新興国の高利回り社債を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「EMサブI Gハイインカム・コーポンド・サブトラスト J P Y ・ B R L クラス」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、エマージング諸国（新興国）の高利回り社債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資対象とする投資信託証券は、30%を上限に新興国の投資適格社債にも投資します。原則として、米ドル売り、ブラジルリアル買いの為替取引を行ないます。
分配方針	毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	36.1	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△ 21.4	△ 17.0	△ 13.6	△ 22.8	0.4	△ 12.7	△ 10.1
平均値	6.5	14.9	20.1	10.6	2.4	9.3	8.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2010年8月から2015年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2011年12月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマーゼィング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA- ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2015年8月20日現在)

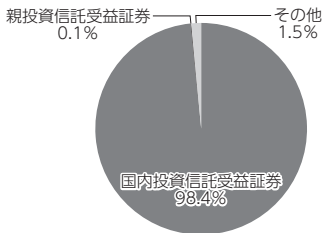
○組入上位ファンド

銘柄名	第56期末
	%
EMサブIGハイインカム・コープボンド・サブトラスト JPY・BRLクラス	98.4
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

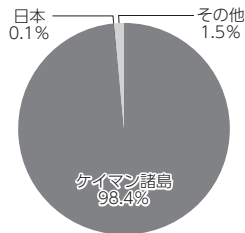
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

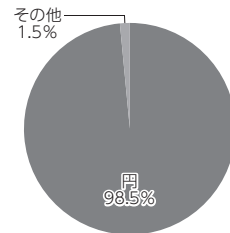
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第51期末	第52期末	第53期末	第54期末	第55期末	第56期末
	2015年3月20日	2015年4月20日	2015年5月20日	2015年6月22日	2015年7月21日	2015年8月20日
純資産総額	61,513,625,335円	64,634,832,676円	64,914,706,704円	60,672,862,051円	57,359,408,757円	49,557,408,615円
受益権総口数	165,971,281,502口	163,178,280,625口	161,975,388,164口	154,967,912,178口	151,786,433,275口	146,780,157,023口
1万口当たり基準価額	3,706円	3,961円	4,008円	3,915円	3,779円	3,376円

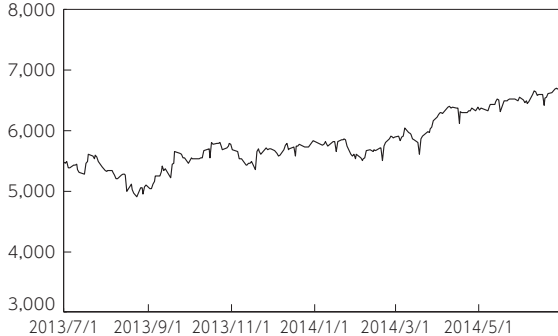
(注) 当作成期間(第51期~第56期)中における追加設定元本額は10,533,024,560円、同解約元本額は38,942,369,173円です。

組入上位ファンドの概要

EMサブIGハイインカム・コーポンド・サブトラスト JPY・BRLクラス

【基準価額の推移】

(2013年7月1日～2014年6月30日)



【1万口当たりの費用明細】

(2013年7月1日～2014年6月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2014年6月30日現在)

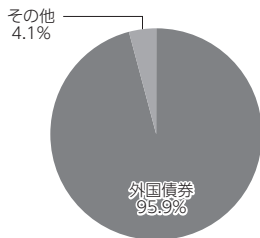
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1 Cemex Finance LLC 9.38%	社債	アメリカドル	米国	3.2
2 Empresa de Energia de Bogota SA ESP 6.13%	社債	アメリカドル	コロンビア	2.6
3 IMAF Global Securities Ltd, VRB 7.13%	社債	アメリカドル	ケイマン諸島	2.2
4 Royal Capital BV, VRB 8.38%	社債	アメリカドル	オランダ	2.1
5 Turkiye Is Bankasi 6.00%	社債	アメリカドル	トルコ	1.9
6 Bharti Airtel International Netherlands BV 5.13%	社債	アメリカドル	オランダ	1.9
7 MCE Finance Ltd 5.00%	社債	アメリカドル	ケイマン諸島	1.8
8 Oi SA 5.75%	社債	アメリカドル	ブラジル	1.7
9 VimpelCom Holdings BV 5.95%	社債	アメリカドル	オランダ	1.7
10 Rosneft Oil Co via Rosneft International Finance Ltd 4.20%	社債	アメリカドル	アイルランド	1.7
組入銘柄数		118銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

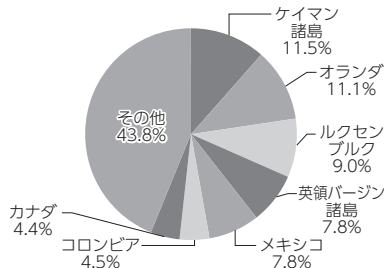
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

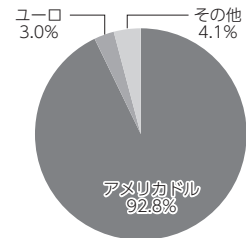
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

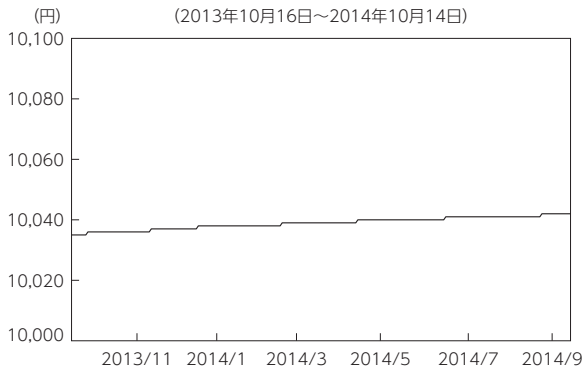


(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2013年10月16日～2014年10月14日)
該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2014年10月14日現在)

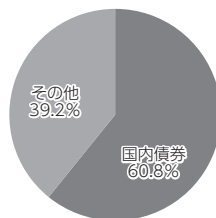
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	第479回国庫短期証券	国債証券	円	日本	31.1%
2	第481回国庫短期証券	国債証券	円	日本	29.7%
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			2銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

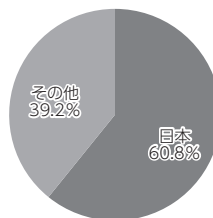
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

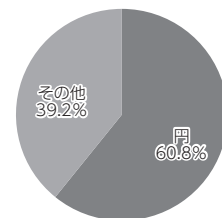
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書 (全体版) をご参照ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数（TOPIX、配当込）

当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込、円ベース）

当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

当指数は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

当指数は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。